

☆ 総 評 ☆

今年は、千点を超える多くの作品が寄せられました。全体的に根気強い観察や実験が多く、自由でユニークな発想の作品が増えているように思います。

ただ、新聞の切り抜きだけだったり、実験において条件が整っていないかったり、たった一回の実験の結果で結論を出してしまったりしているものもあり、別の角度から調べる、もう一度やってみるといったつこみがほしかったと思います。

「本当かな?」ともう一度確かめることが科学の本質です。調べたいと思った動機を大切に、しっかり計画を立てて研究にのぞんでください。

文部大臣奨励賞

「チョウの研究」

神奈川県茅ヶ崎市立鶴が台小学校

五年 坂本 篤津子



どんな場所にチョウがいるのか、どんなえさを食べて、どんな生活をしているのか、どんなところに卵を産むのか、いつ活動するのか、などについて愛媛県(松山平野、天ヶ高原、四国カルスト、大野ヶ原)と神奈川県の各地で調査しました。

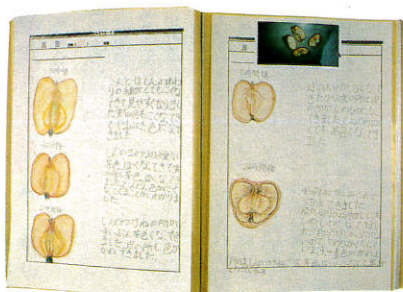
また二十あまりの用具を用いてチョウと食草(幼虫の食べる草)を採集して、その標本を作りました。

チョウの標本作りは、簡単そうに見えて、実は高度な技術を必要とします。

坂本さんの作品は、この採集の地道な努力と、チョウと食草との関係に注目したという着眼点の良さ、そして神奈川県と愛媛県を比較しながらまとめた点が高く評価されました。



優秀賞



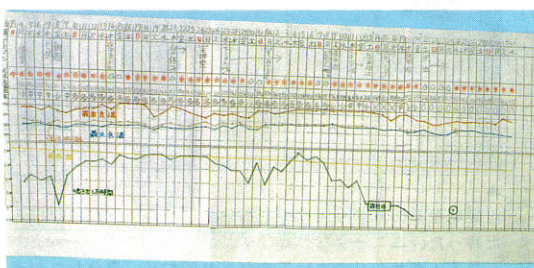
「りんごの色のかわり方」
岐阜県各務原市立藤原第一小
三年 金武由里子

「りんごのどこがいちばん色がわかりやすいか」「なぜ色がかわるのか」「りんごのほかに色がかわるくだものはあるか」「色がかわりにくくする方法」など、だれでも一度は見ている現象についていろいろな方法でユニークな研究に仕上げています。



「うまくくらせるには」
茨城県十王町立楢形小4年 藤原侑海

生ゴミを埋めておくだけで、なぜかわるのか不思議に思い、コンポストボックスの使い方を調べたり、焼却場の「ゴミを減らす課」に行き質問したりしました。2年生のときにやった「土」の研究に基づき、それを発展させた力作です。



「セミと天気の不思議」 大阪府大阪市立堀川小6年 戎野喜将

ふつうの夏、冷夏、暑い夏という3通りの気候でのセミの鳴いた量、鳴き出した時間とそのときの気温などを調べました。

3年間継続した努力も素晴らしいのですが、その大量のデータをよくまとめています。また、新聞記事などもよく参考にしており、3年間のちがいがとてもよくわかる研究になっています。

その他の受賞作品

◆優良賞 「石の大研究」(東京学芸大学附属小金井小三年) 豊住英司

水野香葉 「紙ってふしぎ?」(柳津町立柳津小三年) 奥村有加里 「ギジバト日記(ギジバトの子育ての観察)」(大宮市立大宮小四年) 小野沢恵美 「羽環境の現状」(茅ヶ崎市立第一中三年) 竹内昌史・鈴木海吾・竹内裕貴・岡野悟史・中野木綿子・後藤公之・亀山久仁子・戸井田麻里・田中康貴

◆佳作 「ペコニアのさし木」(栃木市立大宮小三年) 滝田友絵 「クローアゲハとアゲハチョウのかんさつ」(東京学芸大学附属小金井小三年) 田中美帆 「アマガエルの観察と花のつくり」(星美学園小四年) 関根淳 「葉っぱのつてい調査によう戦」(柳津町立柳津小四年) 坂井田孝之 「紙の水のすい取り方調べ」(清水町立清水南小五年) 三上直己 「紙(ヘリコプター)をとばそう」(清水町立清水南小五年) 河村昌明 「天気のことわざは本当に当たるか」(瑞浪市立瑞浪小五年) 松井龍士 「私の頭の働き」(柳津町立柳津小六年) 奥村裕美